

地域 医療部

医療安全管理対策研修会 実習 救命入門コースが開かれる

ロシアでの地震による津波警報・注意報で日本中がザワついた翌日の7月31日、静岡市の県男女共同参画センター「あざれあ」で救命救急の研修会が開かれました。

年配の先生なら「ラスベガスのカジノで倒れた客がAED使用で蘇生するビデオ」や「愛知万博で医学生がAEDで救命したニュース」を覚えているかもしれません。

現代ではAEDがごく身近になり、市民マラソンでAEDを使うことがあってもニュースにもなりません、救命に重要なことには変わりはありません。なお、静岡市では119番通報から救急車の現場到着まで、平均7分かかるといいます。世間一般にAEDが広く普及するようになって、いざとなった時に使えなければ医療者として悔いることになります。そのためには、頭で考えるより前に体が動くようにしておく必要がありますが、人間は忘れるものです。私は、毎年のように「CPR・AED」講習会に可能な限り出席してきましたが、ここ数年は新型コロナウイルスの影響もあって参加が途切れていました。

そんなわけで、今回の保険医協会の企画に、一も二もなく参加しました。

今回は2名の静岡市消防局のOBが、実習指導をしてくださいました。現場で多数救命救急にあたられた方々



で、成書には載っていない勘どころを「実際にはね」と詳しく教えていただきました。

受講者は24名だったそうですが、そのくらいの人数ですと、皆がマネキン実習をすることができます。自分が実習するだけでなく、他の方がするのを見ていて（こうしたら良くなるのにな）（「119番通報」じゃないだろう）などと客観的に観察することも勉強になりました。

「救命場面では、自分の安全確保・二次災害に遭わないことが、まず大切」と、講師ご自身が職務中に大ケガを負った経験を基に話されて心に残りました。

さて、救命救急の知識・技能のブラッシュアップをしました。私が診療室で倒れた時には、スタッフが救ってくれるのでしょうか？